桂林市中医病院から

こんにちは！ No.7

2007.9

９月に入って涼しい日が続いた。１日中雨がしとしとと降り続き、青空を見ることがない。確か去年もそうだった。が、それから 30℃を越える日がまたやって来て。。。これがココの秋なのかな。ということは、そろそろ桂林の花『桂花（キンモクセイ）』が至るところで咲き始め、街中いい香りで満たされる頃だ♪

足に感じる異文化

先日、新しい患者さん（高齢女性）のもとへ行き、ストッキング地の靴下から透けて見える足に驚いた。「ああ…両側こんな奇形になっちゃうことがあるんだ…」と第一印象を抱いたベイ。上半身から身体の状態を診て、さて、足。「あ、あのぉ、この脚は…？」そうしたら、付き添いの娘さんが「ああ、これはねぇ、包脚（ばおじゃお）をしたんだよ。始めて見たのか？」って。包脚？包脚？？包む脚！？もしかして、昔、中国でやってたっていう小さい脚かぁ？　今では中国でも稀で、この患者さんの年齢（70 歳代）ではかなり珍しいそうだ。彼女は５歳

纏足（てんそく）
中国で女児が４～５歳になった頃、足指に長い布を巻き、第 1 指以外の指を足裏に折り込むように固く縛って、大きくしないようにした風俗。唐末の頃から起こり、南宋の頃に盛行。清の頃禁止令が出されたが効果がなかった。民国となってからはほとんど廃滅。～広辞苑～

の頃から巻き始めたが、いくら子どもの骨とはいえ痛い思いをしたらしい。『脚が小さければ小さいほど美しい』とされ、婚姻の際には、顔より先に脚を見せたとか。ではなぜ小さくするのか？　女性は家の外に出て、遠くへ行かないようにだそうだ。。。まさに『文化』だ。それでも、家の中は歩く必要があるわけで、かかとでちょこちょこ歩くのだという。ゆえに、かかとがこんなにも発達したのだろう。加えて、前脛骨筋（スネの前の筋肉）が発達していたことも印象的であった。

話を聞いた最後に、娘さんが「日本人も和服を着ている時は小またでちょこちょこ歩くんでしょ？その点で言えば、昔の日本も中国も女性は同じだったのかね？」と微笑んだ顔は、なんだか爽やかだった。

中秋節

９月 25 日（旧暦８月 15 日）

この『中秋節』、中国では春節（旧正月）に次ぐ大イベント。通常、朝から夜まで開いている商店街もこの日は昼にはシャッターを下ろし、夕食の準備に取りかかるよう。家族そろって夕食を食べ、月を見ながら月餅（ユエビン）を食べる。中国では、お月様には１人の美女と１匹のうさぎがいるのだとか。。。中国の昔話を聞いて、聞き取れなかった部分をインターネットで調べてみると日本にも同じような民話が。中国と日本、切っても切り離せない仲のようですね。

《　ベイの活動報告書　》

今月、新しく作り始めたのがコレ。これで患者さんの状況を紹介する。新聞見開きサイズ、大きくしたのは、通りがかりのスタッフがどこからでも見られるように。そして、写真は多めに。

今は特徴的な患者さんを選んで、見てわかりやすい現象などを説明している。患者さんにほとんど触れることのないここの看護師たちが少しでも患者さんの身体に興味を持ってくれれば…。

「国際協力」のボロを目の当たり？

～ある日本製医療機器との出会いから～

ベイが派遣されて間もない頃の患者さん。脳出血だったのだが、後遺症という後遺症はほとんど残らず回復した。現在は若干のめまいが残っているらしく、その治療で再度入院してきていた。もともと声が大きく、さらにハリのある声の人だったが、、、「おう！老朋友（なじみの友）！」と背後からびっくりするような声がした。振り返ると元気そうな彼とにっこり笑って奥さん。そしてもう１人、ベイを『桂林の娘』と呼ぶおじさんも。たちまち話に花が咲く。ベイの最近や彼ら２人のその後の身体の状態などなど…。とその時、老朋友のおじさんが「目があまり調子がよくなくて、今日は眼科で診てもらったんだ。日本の機械はすごいな！本当にすごい」と。。。そこで思い出したんだ。。。

確か、５月の連休前だったと思う。仕事を終えて帰ろうとしていたベイを病院の技術士のおっちゃんが呼び止めた。「ベイ、お願いがあるんだ。この日本語を訳してくれないか？」と分厚いファイルを手渡された。・・・どれどれぇ？ん？これって医療機器の取扱説明書じゃん！「ごめん。無理だよ。量が多すぎるし、専門用語がさっぱり分からないもの」「いや、いいんだよ。簡単にさ、ぱぱぱっと」「この機器どこから来たの？」「日本からだよ」「日本のどこ？」「ん？まあまあ…。休み明けまででいいから」と無理やり押し付けて追い払われた。

自宅に戻り、目を通してみたのだが、やはり用語が分からない。ましてや、『この機器は一定の訓練を受けた者が取り扱うこと』なんて注意書きもしてある。しばらく悩んだ。やるべきなのか？これをすることで、どんなつながりが出来るか分からない。もしかしたら、自分の活動に優位に働くことも？？？でも、これは医療機器。一医療人としてその責任は持てない。散々悩んだ結果、やはりやるべきではないという結論に達した。しかし、一度受け取った以上そのまま突き返すわけにもいかない。そこで、その説明書に書かれていた販売元へ連絡を取ってみた。先方からは『説明書は製品を買った際にのみ渡せるものであって、さらに手元には中国語の説明書はない。ただし中国には支社があり、そこへ問い合わせてみてはどうか』という返事と連絡先をいただいた。いろいろ悩んでいたため、少し時間が経ってしまったが、その連絡先を持って、ベイができない理由と連絡先を得るまでの経過を話した。そこで、「あ、そうか」と受け取られて以来、、、すっかり忘れていた。その後、どうしたのかも聞かずに。。。

国際協力、よく言われるのが『建物だけを建てて中身がない』だとか『最新機器を入れたのはいいが故障修理が出来なかったり、維持費が確保できない』だとか。この医療機器も、どこからどういう成り行きでこの病院に来たのかは分からない。しかし、入れっ放しってではないか。。。技術士のおっちゃんらはコンセントをそのまま差し込んでいいものか、変圧器が必要なのかさえ分かっていなかった。ベイの見た限りでは変圧が必要であったため、そのままプラグに差し込んだら一貫のおしまいだからね！！！ということだけは強く伝えた。

彼が治療を受けたということは、使用し始めていることは確かだ。説明書が手に入ったのか聞きに行ってみようかな。。。でも、若干怖い気もする。。。中国語の説明書よ、どうかあってくれ。。。

～中国語講座～

●医療・リハ用語

吃薬（ちーやお）：薬を飲む（中国語は「薬を食べる」）
中薬（じょんやお）：漢方薬
西薬（しーやお）：西洋医学で用いる薬
　我が病院は中薬の独特なにおいが立ち込めている

●日本語と意味が違う語

新聞（しんうぇん）：ニュース
　「しんぶん」を表すには「報紙（ばおじぃ）」を用いる

編集後記　ベイの嘆き

９月ももう月末…ということはもうすぐ中国は大型連休なのだ！１０月１日は中国の建国記念日。その前週の土日が出勤で１日から７日間の休暇。先日、以前ベイが担当していた患者さんからある医者のところへメールが来たと知らされた。『きっとこの期間は戦争のテレビ番組が増えるだろうが気にするなとベイに伝えてくれ。国は国、我々は我々だと』いつか愚痴ったのを覚えてくれてたんだな…。ありがとう（ベイ）